

2002 Joint Concert

「三大響宴」

2002年8月9日(金)

あいち女性総合センター

ウイールあいち

主催 愛知学院大学グリーククラブ

岡山大学男声合唱団コール・ロータス

京都大学男声合唱団

後援 朝日新聞社

愛知県合唱連盟

岡山大学校友会文化会

## ○ エール交歓

### I 愛知学院大学グリークラブ

#### 「Negro Spirit – Grieve for Prayer」

- I. If I got my ticket, can I ride?
- II. DE ANIMALS A-COMIN'
- III. Ev'ry Time I Feel the Spirit
- IV. MY LORD, WHAT A MORNIN'
- V. DIDN'T MY LORD DELIVER DANIEL

編曲 Marshall

Bartholomew他

指揮 太田 敏宏

### II 京都大学男声合唱団

#### 川崎洋の詩による五つの男声合唱曲 「やさしい魚」

- I. 感傷的な唄
- II. ジョギングの唄
- III. 天使
- IV. 鳥が
- V. やさしい魚

作詩 川崎 洋

作曲 新実 徳英

指揮 橋本 敦史

ピアノ 嶋田 理恵

### III 岡山大学男声合唱団コール・ロータス

#### 男声合唱 組曲 「冬の日の記憶」

- I. 冬の明け方
- II. 冬の日の記憶
- III. 冬の長門峡
- IV. 更くる夜
- V. 南無 ダダ

作詩 中原 也

作曲 多田 武彦

指揮 光尾 崇

### IV 三団合同ステージ

#### 男声合唱とピアノのための「新しい歌」

- I. 新しい歌
- II. うたをうたうとき
- III. きみ歌えよ
- IV. 鎮魂歌へのリクエスト
- V. 一詩人の最後の歌

作詩 F・G・ロルカ他

作曲 信長 貴富

客演指揮 かん 神田 豊

ピアノ 渡部 真理

## 御挨拶

本日は愛知学院大学グリークラブ、岡山大学男声合唱団コール・ロータス、京都大学男声合唱団によるジョイントコンサート2002「三大饗宴」に御来場下さりまして誠にありがとうございます。

団員の減少に悩む愛知県の合唱団に新鮮な全国の風を吹き込み、そして全国にかつてのような合唱が盛んな時代を取り戻したいとの思いから三団が結集いたしました。

「三大饗宴」のタイトルにはお互いをライバル視、切磋琢磨してよりよいジョイントコンサートにしようという思いが込められています。各団ともそれぞれの性格、特色の強い団であります。その三団がおりなす男声合唱の力強さ、ダイナミックス、また繊細さを皆様方の心に伝えることができれば幸いです。

最後になりましたが、このジョイントコンサートを催すにあたり、御指導、御援助下さいました諸先生方並びに先輩諸氏、関係者各位に厚く御礼申し上げます。

愛知学院大学グリークラブ  
岡山大学男声合唱団コール・ロータス  
京都大学男声合唱団

愛知学院大学グリークラブ顧問・文学部教授

## 松園 斉

本日はお暑い中、ジョイントコンサート「三大饗宴」にお出かけいただき、誠にありがとうございました。毎年、夏に続けているジョイントコンサートですが、今年は、伝統ある京都・岡山両大学の男声合唱団を名古屋にお招きしてのコンサートとなりました。京都大学とは、私も学生時代（はるか20年ほど昔のことです）、九州の某大学男声合唱団の一員として、京都でコンサートを行ったことがあります。その時は打ち上げで破目はずし、会場の絨毯をビールで滅茶苦茶にしてしまい、後で京大さんが弁償したということで、ちょっと苦い思い出になっています（その後後輩たちは岡山大学にも迷惑をかけたらしい…合掌）。このジョイントの場は、歌う側も聴く側もいろいろな楽しい思い出ができる場です。日頃は少ない人数で、曲によっては大変なことも多々あるのですが、今宵は頼りがいのある仲間と共に、気持ちよく歌い上げてくれると思います。最後になりましたが、コンサートの実現にご助力いただいた神田先生をはじめ関係の皆様には厚く御礼申し上げます。

岡山大学男声合唱団コール・ロータス 顧問

## 田中 紀章

名古屋の8月の暑さの中なればこそ、ワールド・カップ・サッカーの熱気が懐かしいはずのこの頃。そこで今宵は三大学男声合唱の熱気を浴びて下さい。愛知学院大学「Negro Spirit」、京都大学「やさしい魚」、そして我が岡山大学は何故か「冬の日の記憶」…です。春夏秋冬、人生を四季に例えれば、冬の季節が過ぎ去ったあと、私たちの魂はどうなるのでしょうか。人生の夏の日に、冬の日の記憶を迎えることが出来れば、この夏の熱さがひととお大切に思われることでしょう。

# 「Negro Spirit - Grieve for Prayer」

- I. If I got my ticket, can I ride?  
 II. DE ANIMALS A-COMIN'  
 III. Ev'ry Time I Feel the Spirit  
 IV. MY LORD, WHAT A MORNIN'  
 V. DIDN'T MY LORD DELIVER DANIEL

編曲 Marshall Bartholomew 他  
 指揮 太田敏宏

17世紀初めから19世紀の半ば、アメリカでは黒人は奴隷として扱われていました。奴隷達には私には到底考えの及ばない悲しみがあつたと思えます。現代を生きている私たちにもたくさんの悲しみがあつますが、私たちがどんなに深い悲しみを感じようとも、奴隷達の感じる悲しみのように絶望感を味わうことはありません。

人間は弱い生き物です。どうしようもない絶望感を感じたときそこに光を見出せるのでしょうか？奴隷達は自分の意思とは関係なしに支配者のエゴにより非人間的な扱いを受け、何一つ満足を得られないそんな暮らしをしてきたのです。人間として生まれた限り誰しもが幸福を求めましょう。奴隷達には半永久的に続く苛酷な労働や非情な虐待により幸せを得るチャンスすら与えられなかったのです。では奴隷達は何を糧に生きていったのでしょうか？…そこには信仰があり、神の存在があつたのです。つらい労働もいつか救われる、神様が助けてくれると信じていたからこそ生きていったのです。そしてその想いを託している歌が「黒人霊歌」です。

それでは我が団の演奏に耳を傾けて下さい。そして感じて下さい、決して途切れることのない悲しみと希望に溢れた歌達を…



学生指揮者 太田敏宏

かかる折、早いところ「かまいたちの夜2」がやりてえなあ。という気持ちだけで最近では生きておられますが、今日現在（7/16）までのジョイントの練習では、オイラの技術だけが伸びに伸びて部員の連中ががついてこれないという状況なんですよ（桂文珍風に）。こりやイカんってんで、とりあえず恒例の土気高揚演説（土気+5）でもブチかましてボルテージを最高潮まで高めて本番には会場のお客様に満足していただけるようなら素晴らしい演奏を行えるよう前期のレポート試験と同時に進行を進めてみようという五カ年計画を立てたわけですが、今日サ○セリアで食べたアスパラサラダの美味しいこと美味しいこと。どうやら自分家が家でフアァァァンなどやっている間に世間はすっかり様変わりしたようですよ。



本日はお忙しい中、ジョイントコンサート2002「三大饗宴」にご来場下さり誠にありがとうございます。我が愛知学院大学グリーオーケは、合唱人口が減少している時代にあつても、今どきの若者といった個性の豊かな、また去年卒団された先輩の穴を埋め尽くして尚余りあるほどの新入生を迎え入れることができ、総勢27名で日々活気にあふれた活動に励んでいます。

我が団は「ナンバー1よりナンバー1になれ」を言葉に毎日の練習、遊び、一部は勉強とといった有意義な大学生活を送っています。27人もいれば27人の考え、趣味があります。それぞれの道を極めようと努力し、いろいろな方向を向いている部員たちの心。しかし、合唱というものはそのバラバラに向いている部員たちの心一つにし、一つの道を指し示してくれます。そこに合唱のおもしろさ、神秘さがあると思います。

今宵のステージ、この合唱、グリーオーケに出会えた嬉しさをかみめながら歌い、表現している部員の姿を感じ取って下さればとても幸いです。

最後になりましたが、岡山大学男声合唱団コール・ロータス、京都大学男声合唱団の皆様と共に、ジョイントコンサートを開催できることを心より嬉しく思います。どうぞ最後まで我々三団によります演奏を皆様心ゆくまで堪能下さい。

## MEMBERS

### TOP-TENOR

今岡 健 歴史4・木曾  
 太田 敏宏 日本文化3・浜松日体  
 水崎 洋一 商3・浜松商業  
 福世 剛士 法2・相良  
 位田 勝也 法律1・四日市西  
 大石 琢磨 歴史1・刈谷東  
 白石 珠磨 心理1・野沢北

### SECOND-TENOR

明石 健司 日本文化4・海星  
 細野 智也 法4・池田  
 居場 大輔 歴史3・東豊中  
 永田 雄介 日本文化3・韮崎正  
 阿部 誠 日本文化1・豊田西  
 萩原 陽一 心理1・北陸

### BARITON

坂 俊彦 法4・岡崎城西  
 黒田 英和 心理3 富士北  
 伊藤 大輔 法2・愛日院  
 山田 明浩 経営2・大野  
 那須 徹 経営1・中農西

### BASS

加藤 良範 宗教4・南山  
 山田 耕大 経営3・浜松商業  
 上山 主税 心理2・勝山  
 大久保誠紀 日本文化1・袋井  
 鈴木 健二 情報社会1・徳大  
 古田 仁孝 宗教1・栄徳



川崎洋の詩による五つの男声合唱曲

「やさしい魚」

- I. 感傷的な唄
- II. ジョギングの唄
- III. 天使
- IV. 鳥が
- V. やさしい魚

作詩 川崎洋  
作曲 実徳  
指揮 新橋 英史  
ピアノ 嶋田 恵

「風が吹くから 生きよう そう思う前に もう足が駆けていた」  
授業中、窓の外を見ながらぼんやりと考えていた由無し事...

男声版「やさしい魚」は1984年に第1刷が発行され、現在の第8刷に至るまで17年以上の間、歌われ続けている名曲です。

新美徳英氏の作曲は実に綿密かつ繊細であり、各パートに要求される課題は実に多岐にわたっています。

またオ리지ナルである混声版と比べて男声版は音域とともに音楽表現も凝縮されており、しっかりと流れた流れの中に混声版に劣らぬ色彩豊かな音楽が実現されています。

本ステージでは、京都大学男声合唱団の演奏により、叙情的かつ美しい景観を持った男声合唱曲集「やさしい魚」の世界をお楽しみください。



学生指揮者

橋本 敦史

この若者は 意外に速くからやってきた。(北海道)  
3回生に上がる際「歳くっただとは絶対言わない！」と宣言した彼は、しかし暑さには負けまくる。4月から半袖(当然)、部屋は常に冷房(ガンガン)、2時間以上外にいるとまぶたが五重になる(疲労のしるし)。全く毎回練習に来れているのが奇跡である。

その奇跡を成し遂げているのが音楽への情熱。部屋には作曲、ドラム、音楽史に至るまで音楽の本が並び、毎日の殆どを音楽性の向上に費やす。

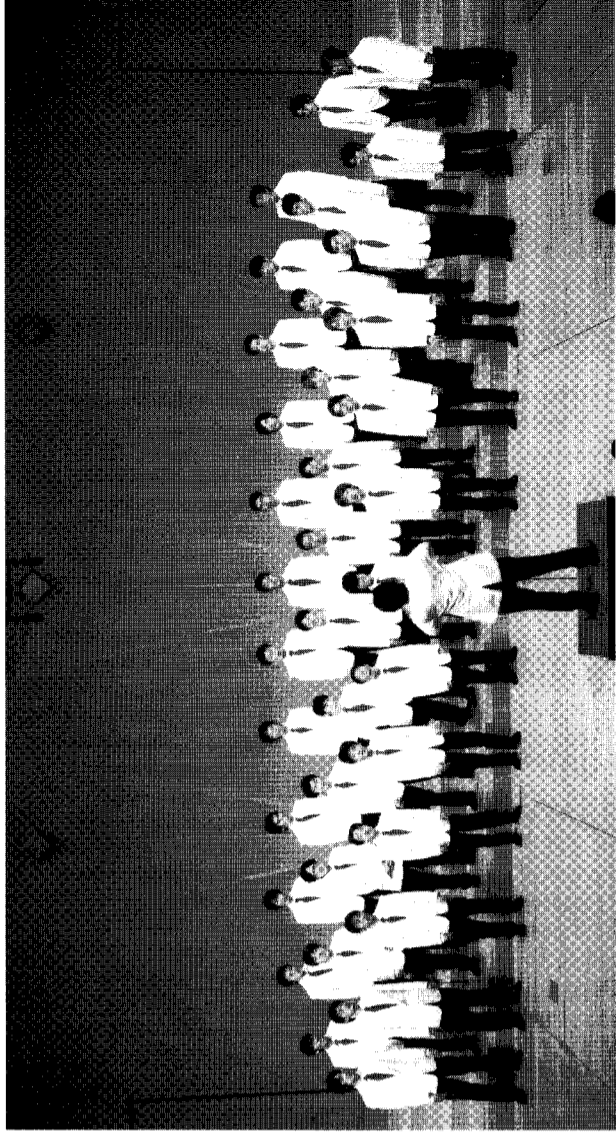
そんな熱いから部屋の温度も上がるんですよ。そしてクーラー。

彼の部屋でぼくは思わずくしゃみをする。



ピアノ伴奏 嶋田 理恵

県立西宮高校音楽科卒業。97年、京都市立芸術大学音楽学部入学。98年、第九回吹田音楽コンクールピアノソロ部門第2位。00年、同大学第105回定期演奏会にソロistとして出演。01年、同大学音楽学部卒業、音楽学部賞受賞。卒業に際して、卒業演奏会、関西新人演奏会等に出演。また京都芸術祭デビューコンサートにおいて京都府知事賞受賞。現在同大学大学院在学中。これまでに、角所いづみ、立川聖子、池田寿美子、種田直之、神谷郁代の各氏に師事。



ご来場の皆様今晚は、京都大学男声合唱団です。

私達は京都フラウエコールと共に、京大合唱団として混声活動もしているという、全国でも非常に珍しい団です。

我が団の活動場所である由緒正しい(古いともいう)Boxには、練習のときに限らず、実に様々な人が集まってきました。それぞれ、何かひとくせ持った人ばかりで、まさに我が団は、「個性の集合体」というにふさわしい団と言えるでしょう。

そんな私達をひとつに結びつけているものがあります。それは「うたをうたう喜び」です。曲に触れていく中で抱いたイメージ、想いを仲間と共に声を合わせて表現する。この喜びこそ、私達をひとつにし、魅了してやまないものなのです。

今日のJoint Concertに向かい進むなかでも、その「喜び」を見つめ追求しながら、私達は歩んできました。今宵のステージでは、そんな私達の歌声や歌う姿を通して、合唱というものの喜びを、そして私達が合唱にかける、この上ない気迫と想いを、皆様感じ取って頂けることと思います。

最後になりますが、このコンサートを開くにあたり、ご尽力くださった関係者の方々に、心から御礼申し上げます。

MEMBERS

TOP-TENOR	SECOND-TENOR	BARITON	BASS
堀場 貴博 津田 克彦 米田 誠一 岩村 真理 竹本 淳 大西 真史 平手 健一 松林 和也	大田 洋 松永 隆行 和田 純平 橋本 敦史 田中 克樹 近藤 大介 佐々木 裕也 中嶋 哲人 渡辺 慎也 大和 良浩 河合 壯平 日置 修哉	上野 久江 松島 新谷 江口 山口 新谷 山田 藤井 本田 重蔵 藤原 廣瀬 加久 加賀 久瀬 神原 植西 荒瀬 関本 岡本 井	吉田 信正 大塚 祐平 河合 拓也 佐藤 健夫 伊藤 太郎 清水 孝範 清水 司 田代 真司 升野 真一郎 飯野 晋
総理 4・旭丘 理工 3・鳥取東 工工 3・清風南海 工工 2・修猷館 農 2・豊岡 経 1・海 理 1・岡崎	理 4・学習院 経 3・長田 工 3・長野北 工 3・札幌 理 2・八鹿 理 2・立大附属福山 工 2・鳥取東 経 2・洛星 経 1・三国丘 工 1・三国丘 工 1・修猷館	文 4・東海 工 3・明星 工 3・久留米大附設 法 3・洛星 工 3・清風南海 工 3・熊本 理 3・創価 工 2・芳泉 工 2・洛南 業 2・旭丘 工 2・洛南 文 2・桃谷 工 1・東海 工 1・近大附属東広島 工 1・旭丘 経 1・洛星	理 4・熊本 理 3・滝 工 3・滝 総 3・秋田 工 2・大教大附属天王寺 工 2・桐蔭学園 理 2・一宮 理 2・一宮 工 1・県立千葉

男声合唱組曲

# 「冬の日の記憶」

- I. 冬の明け方
- II. 冬の日の記憶
- III. 冬の長門峡
- IV. 更くる夜
- V. 南無 ダダ

作詩 中多光 也彦  
作曲 原田尾 武彦  
指揮 中多光 尾 崇

草木は枯れ、鳥は去り、ただ漂とした空気のみが寂しく、人恋しい季節——冬。この組曲「冬の日の記憶」には、中原中也が体験した様々な「冬」が描かれていきます。人生における冬の清らかな暗い絶望の淵で中也が感じた「孤独」「悲哀」は、ときに現実の冬に重ねられ、ときにその清らかなさに対比され、より深く、色濃く表現されています。この曲を通して、美しくも儚い冬の日を皆様にお届けしたいと思います。

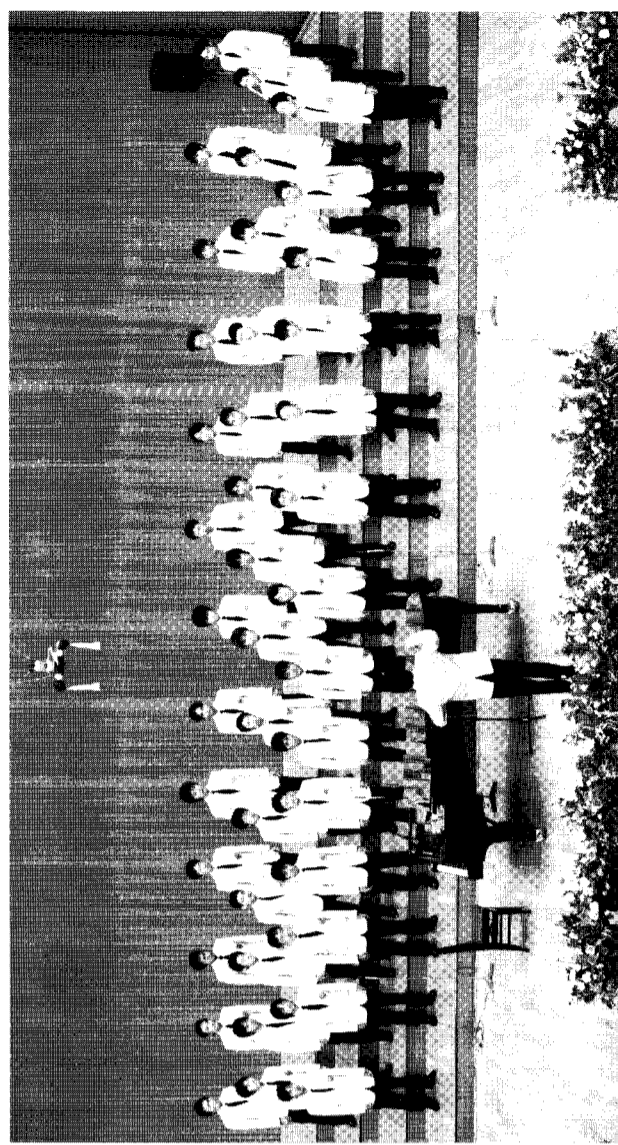
- I. 冬の明け方  
まだ暗い冬の明け方。凍りつき眠っている景色は、二度と目覚めないかにも思えてくる。中也は、息子を亡くし沈んだままのその想いを世界と重ねていた。やがて世界は朝を迎え、全てのものは目覚め始める。しかし、あの子は還っては来ない…。変わる世界の様子と、変わらない中也の心が、一層の孤独を感じさせる。
- II. 冬の日の記憶  
弟の突然の死。にもかわららず、仕事のため戻ることのできない父親。泣いてばかりの母親。離れてゆく家族や、微小な命に無関心な世間に苦悩する、中也の青年期を歌った曲。
- III. 冬の長門峡  
身も凍るような寒い日。雄大な長門峡の風景に包まれ、水が生命あるもののように流れている。店にこもり、繰り返り酒を呑んでいる私は、本当に生きていると言えるのだろうか…。生と孤独に対する中也の疑問が、繰り返される寒さや景色の旋律から伝わってくる。
- IV. 更くる夜  
次々に更けていく冬の夜。一日を終えた世界は、安らかな夢を迎える仕度を始めている。その眠りに誘われた中也は、まどろみの中、失われかけた「やさしい心」の声を聴く。
- V. 南無 ダダ  
苦難・苦悩に満ちた己の人生を振り返り、中也自身の生き方に対する理想を、伝統から逸脱した手法により表現した最終曲。人生という豪雨の中でただ時の雨に流されていくのではなく、部屋の中にも、何にも干渉されずに穏やかに生きていきたい。失望の連続であった中原中也が、その果てにたどり着いた人生観を、魂の叫びを、すべての「ひと」へ訴えかけている。

学生指揮者 光尾 崇



それは、あるあるとうい夏の夜の夜のことでした。  
普段なら関西弁(エセ)で朝までうるさいタカシ様のお部屋…そこから、「モケケカカカ」という奇妙な鳴き声がしているのです。  
不審に思った私はそっと部屋のフスマを開き、中の様子を覗こうとしました。そのとき！生ぬるい風と共に私の目に飛び込んできたのは、変わり果てたタカシ様の姿でした。あのアホトークからは想像もできない、修羅の形相。長く伸びた首と爪。滴るヨダレ。そして、半年は切っていないであろうその髪。そう、タカシ様の中にはもう一つの人格「妖怪ミツヲ」が眠っていたのです。  
「ミ〜タ〜ナ〜」そう言うのとミツヲは、上下左右にその鎌首を振り始めました。その妖しくも正確に刻まれるリズムに、私は魅了されました…その後のことは記憶にございません…

「モケケカカカ…」たとえあなたがこの妖しい声を耳にしても、決してフスマを開けてはならない…



こんにちは。我々岡山大学男声合唱団コール・ローターは今から41年前に10数人の有志により結成され、現在40名を越える合唱団となりました。

団員をパートごとに紹介しますとトップはサムく、セカンドはわいせつな言葉を言っては喜ぶ下ネタパート。バリトンにはよく言えば素直、悪く言えば天然バカが集まり。ベースは一言で言い表せないほどの奇人変人ばかりで、指揮者はモケケケ言ってるばかり。

こんな我々ですが、誰にも負けないものがあります。それは『ローターズ愛』です。誰よりも勇気あふれる者たちの集まりローターズ。誰か一人が困っていれば皆が助けてくれるローターズ。はじける時はとことんはじけ、しめる所はしっかりとしめるローターズ。そして何よりも楽しいものローターズ。そんなローターズを愛してやまないものたちが我々ローターズメンである。あなたも今宵、ローターズのとりことなるに違いない。

## MEMBERS

TOP-TENOR	SECOND-TENOR	BARITON	BASS
西山 陸幸 野口 一郎 阿部 裕二 光兼 拓矢 吉川 敏史 高橋 宏和	松田 善史 早川 耕平 東野 成哉 光尾 崇 森田 真人 伊神 亮 菅 大輔 近藤 豊将 中馬 良和 常石 竜太 吉川 尚志	赤澤 正道 酒井 恭平 島田 裕一 園田 康夫 小西秀一郎 山中 康幸 鹿島 健 真鍋 努 水本 翔	倉谷 隆明 赤澤 善男 今西 弘典 山田 義高 井村 龍彦 江角 悟 古賀 庸晃 宮下 治教
工M1・玉島 工4・英数学館 理3・山口 教2・新居浜西 理2・萩 工1・北条	理M2・脇町 工4・開明 環4・彦根東 工3・三田学園 工3・耐久 環1・岐阜 理1・新田 工1・岡崎北 工1・近大付属東広島 工1・岩国 農1・春日	工4・高松 工4・夢野台 工3・松江北 工3・彦根東 理2・春日 工2・高知道手前 工1・国東 経1・宇部 工1・龍野	工3・津山 工2・玉島 農2・下関西 工2・山口 工1・池田 業1・出雲 業1・筑紫 工1・南宇和

男声合唱とピアノのための

# 「新しい歌」

- I. 新しい歌
- II. うたをうたうとき
- III. きみ歌えよ
- IV. 鎮魂歌へのリクエースト
- V. 一詩人の最後の歌

作 詩 F・G・ロルカ他  
 作 曲 信 長 貴 富  
 かん だ とよ ひさ  
 客演指揮 神 田 豊 壽  
 ピアノ 渡 部 真 理

人の好みは移ろいやすい。それは音楽の好みについても例外ではなく、時の流れよりも早く変わってしまう。そして僕たちは新しい歌へと導かれていきました。

「うた」とはいいなんだろう。ある人にとっては掛替えのない人生の友であり、又ある人にとっては気持ち伝える手段で、考えてみると、とても素敵なのに気が付きます。僕たちは「うた」うたうことを楽しんでます。それは聴いて下さる方々への最低限のマナーでもあるからです。「うた」を楽しむ人間の歌を聴いても、きっと楽しくないと思います。だから僕たちは「うた」うことを楽しみます。

「新しい歌」には「うた」を自然と楽しませてくれる、そんな力がありました。楽しもうとして楽しんでいくのではなく、心の底から楽しめるのです。この「新しい歌」に出会い合唱の幅、可能性が一気に広がっていった感じがします。皆さん自身初めてこの「新しい歌」に触れる方、何度か耳にされている方も、僕たちの熱い「うた」に火傷しないようご注意ください…

## ワルター・ダム・シマカース

### 第6回 演奏会

2002年11月30日(土) 18:30

#### ア・カペラ合唱曲集

「夢みたものは」[鷗]「うたをうたうとき」[○と△の歌]「卒業」[卒業]「天のベンチ」

#### パート・ソングズ

——身近な曲を合わせて歌うと——

#### 佐藤 真 混声合唱組曲「旅」

指揮/村瀬輝恭 大野恭史

東文化小劇場 (地下鉄名城線「ナゴヤドーム前矢田」駅下車 1 番出口すぐ)

入 場 無 料

連絡先: むらせ てるやす TEL/FAX 052(842)5083 (直通)  
 HPアドレス: <http://www.hpmix.com/home/kazushi/frame.htm>

客演指揮者 かん だ とよ ひさ  
 神 田 豊 壽

愛知県立芸術大学大学院修了。三神二郎氏に師事

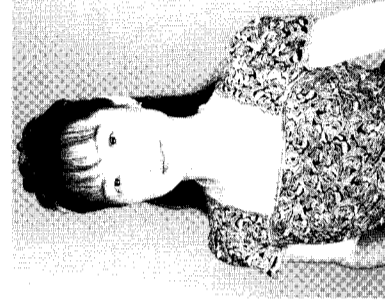


「魔笛」(タミーノ)「秘密の結婚」(パオリーノ)「ドン・ジョヴァンニ」(オッターヴィオ)に出演。

名古屋オペラ協会「夕鶴」(与ひょう)「袈裟と盛遠」(義清)に客演。ベートーベン「第九」ヘンデル「メサイア」の独唱など名古屋を中心にオペラ、オーケストラとの共演、コンサート活動を続ける。

現在、藤ヶ丘コーラス、瀬戸メサイア合唱団、楽しく歌おう会などの合唱団を指揮している。

現愛知学院大学グリーククラブ常任指揮者兼ヴォイストレーナー。



ピアノ伴奏 渡 部 真 理

愛知県立芸術大学音楽学部器楽(ピアノ)専攻を卒業。

同大学院修士課程修了。ピアノを横山千代子、松井秀、久保みち、(故)小津恒子、(故)三宅洋一郎、ディーナー・ヨッフエの諸氏に師事。

また伴奏法を三浦洋一、土肥みゆきの各氏に師事。在学中より学内外での作曲作品発表会にて新作を数多く初演。静岡県音楽コンクールピアノ部門第1位。1998年かやぶき音楽堂ピアノ Duo 連弾コンクール第3位。1999年朝日室内楽シリーズ出演(ピアノ二重奏)。リサイタル、コンチエルトの他、ピアノ二重奏、各種室内楽、合唱、独唱などの共演者として幅広く活動。

現在、桜花学園大学、愛知学泉短期大学非常勤講師、名古屋音楽学校講師。



## 東海モラルクワイア-

# 高田三郎作品による東京演奏会

● 曲 目 / 「野分」「心の四季」「典礼聖歌集」「わたしの願い」

指 揮 須賀 敬一 阿部 昌司 日 時 2002年10月27日(日) 13時30分開演  
 ピアノ 中村有木子 塩見 宣子 会 場 石橋メモリアルホール(東京・上野)  
 オルガン 木島美紗子 入 場 料 2,000円(全席自由)

今後の出演予定 後 援 ICDA 日本合唱指揮者協会 日本男声合唱協会

● 単独ステージ演奏曲

指揮 須賀敬一/高田三郎 作曲「心の四季」

## 全四国男声合唱フェスティバル2003

日 時 2003年1月12日(日) 13時30分開演 場 所 香川県高松市 高松市民会館

お問合せ/都築義高 ☎ 0565-32-7013 FAX 0565-33-6177

川瀬治通 E-mail: kawase@kctv.ne.jp